**オロロジカル・マシーン No5 RT： HM5が再び走り出す** – **今度はレッドゴールドで**

HM5 RTは驚きにあふれた時計だ。

時分表示はありふれた普通のデザインに見えるが、これは実は反転表示の双方向性ジャンピングアワーなのだ。90度の屈折反射で、さらに20％の倍率で拡大されている。

HM5 RTのケースは未来的なデザインだが、これは実は1970年代のデザインをもとにしている。

HM5 RTは機械式ムーブメントだが、クオーツ全盛時代の時計にインスパイアされている。

スーパーカーの場合はリアのルーバーが光をブロックするが、HM5 RTの場合はここから光が取り入れられる。

自動車の伝統からメリットを受けた時計にふさわしく、HM5 RTには排気管がついているが、これは実際には排水口として機能する。

HM5 RTのケースにリッチな輝きを与えるゴールドは、もちろん地球上で採掘されたものだが、この金属ができたのは今から何十億年も前、宇宙の彼方での出来事なのだ。

過去20年間、さまざまな発明が加速度的なスピードで次々と実現し、私たちの生活に革命的な変化を与えてきた。 実際、信じられないような優れた機能を持ったさまざまな機械が数多く生み出されてきたので、イノベーションに対する感動は私たちの中ではすでに薄れてきてしまっている。 ディナーをつくれるロボットはまだないかもしれないが、自動車を製造したり、家の中の掃除をしたり、芝刈りをしたりすることができるロボットはすでに存在する。 火星に人類が到達できるかどうかは、もはや技術の問題というよりも資金の問題となっている。

オロロジカル・マシーン No.5 RTは、私たち人類がまだテクノロジーにこれほどまでに食傷気味になっていなかった時代、すなわち1970年代にインスパイアされている。 その時代、未来はどれほどワクワクするような夢の世界だったのだろうか。 流線型のスーパーカーは道路を飛ぶように走り抜け、ホバークラフトは海の上を文字通り飛び越えてゆく。音速飛行を実現した旅客機コンコルド。アポロ宇宙船による月面探査。 不可能なことなど何もないように思われた時代。人間型ロボットや個人用のジェットパック、空飛ぶクルマの実現も、もうすぐそこだと思われた時代。 1970年代の未来、それは明日ではなく、今日のことだったのだ！ 現在、空飛ぶクルマはまだ発明されていないかもしれない。だが、HM5 RTを腕につければ、金色に輝くハイテク・スーパーカーを自分の手首につけることができる。

5Nレッドゴールドに深めのブラシ仕上げをほどこしたケースはリッチな輝きを放つ。そのあたたかみのある色調は、文字盤を囲むトリムのクールなエレクトリックブルーと完璧な対比を演出する。

ケース下部の側面と基底部に使用されているグレード5のチタンは、レッドゴールドのフォーマルで高貴な雰囲気を強調し、それと同時にこれをやわらげる効果も果たす。

HM5 RTのケースは51.5x49ミリと大きめのサイズ。ゴールドは美しいだけでなくそのずっしりとした重量感も特徴とする金属だが、超軽量チタンを要所に分散して使用することによって、HM5 RTはとても着け心地の良いマシーンに仕上がっている。

HM5 RTは5Nレッドゴールドおよびチタン製で、ラグジュアリー感あふれる限定66個生産。

**オロロジカル・マシーン No5 RT**

**インスピレーションとその実現：** MB&Fの創設者マキシミリアン・ブッサーにとって、少年時代を過ごした1970年は常に夢と驚きにあふれた時代だった。 超音速ジェット機が空を飛び、宇宙空間にまで飛び出していった。ロードムービーに登場するアメリカのマッスルカーが少年の想像力を刺激した。

ランボルギーニ・ミウラがスーパーカーの新ジャンルを切り拓いた。それは、止まっていても音速の壁を突破できるかのようなデザインの車だった（これを見たマックス少年はカーデザイナーになる夢を抱いた）。 レーザー、トランジスタ、電子レンジ、ホバークラフト、ジェットパック……科学とSFの違いは、それが可能か不可能かということではなく、いつ可能になるかということだと誰もが感じていた。

そして、クオーツ式腕時計の登場により時計のデザインも大きく変わった。おじいさんが身につけていたような腕時計から、「スター・トレック」で宇宙船エンタープライズ号のカーク船長が身につけているようなものへと。 HM5 RTは、そんな子供時代の夢に新たな命を吹き込み、再び走り出す力を与えるものだ。

*「1972年に戻って、2012年にはほとんどすべての人が円形の文字盤に3つの針が回る丸っこい時計を身につけているよ、と誰かに話してみるといい。 そんなことは火星に移住するよりもクレイジーだと言って信じてもらえないだろうね！」*マキシミリアン・ブッサー

**ケース：** 特徴的なくさび形のオン・ザ・ロード・アゲインのケースは、アミダ・ディジトレンドの大胆なデザインへのオマージュだ。 しかし、これは同時に、あの時代ならではの低車高のスーパーカーをモチーフとしたデザインでもある。

スーパーカーでは、ルーバーはほぼ水平のリアウィンドウから車内に入る太陽光（そして熱）を制限する役割を果たしていた。 HM5では、ルーバーはこれとは全く逆の機能を担っている。すなわち、スーパールミノバを使用した時分表示ディスクの数字が光を蓄えられるように、ルーバーを開いて光を入れられるようになっている。 ディスクは実際にはケースの前に垂直に置かれているのではなく、ムーブメントの上（ルーバーの下）に水平に位置している。これが垂直に見えるのは、ある視覚的なマジックによるものなのだ。 ルーバーの開閉により、文字盤の光の強さを調節することもできる。 ルーバーはケースの横に組み込まれたスライドで開閉可能。

スーパーカーのもうひとつの特徴は、大きな2つの排気管だ。タイヤからは煙が立ちのぼり、耳をつんざくような轟音がエンジンから響き渡る。 だが、HM5の排気管からは荒々しい排気音とともに排気ガスが出てくるわけではない。万が一HM5 RTが水につかってしまったとき、ここから水を排出するのだ – 『わたしを愛したスパイ』でジェームズ・ボンドが操るロータスのように。

そして、1970年代の未来的なアイコンに欠かせないのがジェットだ。 人間工学に基づいてデザインされたHM5 RTのクラウンには、MB&Fのバトル・アックスのモチーフがはめ込まれている。オン・ザ・ロード・アゲインを未来に向けて飛び立たせるためのパワーを与えるこのクラウンは、ケンタウルス座アルファ星行きのロケットやバットモービルでも簡単に動かせそうな雰囲気を漂わせている。

潜在的なダメージを最小限に抑えるため、クラウンの巻真は3つのラジアル・ベアリングで支えている。 クラウンはムーブメントに対して垂直なときにしか押したり引いたりできないようになっている。

**時分表示と反射プリズム：** HM5 RTの時分表示盤、すなわち数字が刻まれていて回転するディスクは、比較的シンプルだ。重なり合っている2つのディスク（ひとつは時間表示、もうひとつは分表示）は全面がスーパールミノバでコーティングされており、8ミリという大きなサイズの数字の部分だけがマスキングされて光らないようになっている。

ディスクはムーブメントの上で水平に回転するのだが、ケースの前面の「ダッシュボード」では時間表示が垂直に立ち上がって見える。 このマジックは、高精度光学ガラスメーカーとの共同で開発したサファイアクリスタルの反射プリズムによって実現した。このプリズムがディスクからの光を90度屈折させ、さらに数字が読み取りやすいように大きさも20%拡大する。

くさび形をしたこのサファイアプリズムは、水平に置かれた時分表示盤からの光がずれたり歪んだりせずに正確に垂直に立ち上がるように、精密な計算のもとに角度が設定されている。 前面の凸レンズが数字を拡大する。 サファイアクリスタルはガラスよりも光学的な精密さを出すのが難しい。その開発には長い時間を要し、製造にも細心の注意が必要となる。ほんの小さな歪みもなく、正確に光を屈折反射させるクリスタルは、そのようにして生み出されるのだ。

映し出されるのは反射した数字なので、「文字盤」上に数字が正確に現れるように、ディスク上の数字は鏡像で印字されている。 前面のガラスは黒ではないが濃い色の色つきガラスで、時間や分の数字が動いて出入りする様子がよく見えるようになっている。数字には真珠光沢の輪郭線がほどこされていて、HM5 RTのもとになったディジトレンドを彷彿とさせる（ディジトレンドはクオーツ風のLEDディスプレイつき時計を模したデザインだった）。

前向きの垂直文字盤のおかげで、HM5 RTは車の運転にはまさにうってつけの腕時計となっている。時間を確認するためにハンドルから手を離す必要がないからだ。

**エンジンと内部ハウジング：** これはどんなスーパーカーについても言えることだが、マシーンの中でも最も優れた部分はフードの下に隠れていることが多い。HM5 RTのケースの「フード」を開けると、驚いたことにそこにはさらに内部ケースが格納されているのだ！ ロシアのマトリョーシカ人形の入れ子構造のように、外側のケースを開けると、中にはさらにもうひとつのチタン製ケースが隠れている。

エンジンを内部のケースに収納している理由は、防水のためだ。 スーパーカー風のルーバーからは光だけでなく水も入ってくる（そのために2つの排水口がついている）。高性能エンジンをチタン製のシェルに格納したのも、湿気や衝撃から保護するためだ。 内部ケースは堅牢な自動車のシャーシのようなもので、これに外部の車体、すなわち時計のボディが取り付けられている。

HM5のエンジンを開発したのは、ジャン＝フランソワ・モジョンとヴァンサン・ブカールが率いるクロノード社のチームだ。 見た目はシンプルかもしれないが、実は非常に複雑だ！ ジャンピングアワーは双方向性で、時間を進めることも戻すこともできるので、時間合わせも簡単だ。 時間と分を表示する2つのミネラルガラス製ディスクはフラットな幅広のブリッジで支えられている。 2つのディスクは、大きくて読みやすい数字を表示するスペースを確保するために、直径が最大になるように重ねられている。

HM5 RTを裏返すと、バトル・アックスをかたどった22金製の「ミステリー」自動巻きローター、高速で振動するテンプ、驚異的な手仕上げのブリッジが仕込まれたエンジンが、防水性のケースにはめ込まれたサファイアクリスタルのディスプレイの背面を通して姿を見せる。

**オロロジカル・マシーン No5 RTの技術仕様**

**18金レッドゴールドおよびチタン製、66個限定版**

**エンジン：**

クロノード社のジャン＝フランソワ・モジョンとヴァンサン・ブカールが開発した3次元オロロジカル・エンジン
ソーウィンド社製のギアトレイン使用
バトル・アックスをかたどった22金製「ミステリー」自動巻きローター
パワーリザーブ： 42時間

テンプの振動数： 28,800bph/4Hz
部品数： 224

石数： 30
エンジンは防水加工のチタン製内部ケースに格納

**機能／表示：**

分表示と双方向性のジャンピングアワーの時間表示は反射するサファイアクリスタルのプリズムによって表示され、一体型レンズで拡大表示される

ケース上部のルーバーはスライドで開閉

**ケース：**

18金ゴールドおよびチタン製。内部には防水加工のチタン製エンジンケース

ルーバー開閉用のスライドボタン
水を排出する排水口
サイズ： 51.5mm x 49mm x 22.5mm

部品数： 80
エンジンケースの防水性能 30m / 90’ / 3atm

**サファイアクリスタル：**

反射防止コーティングと20％の倍率を備えた光学グレードのスモーク加工サファイアクリスタル。 背面のサファイアクリスタルには両面に反射防止加工。

**バンドとバックル：**

立体加工のラバーバンド、チタン製の通常バックル

**HM5 RTの製作に携わった「フレンズ」**

*コンセプト：* マキシミリアン・ブッサー (MB&F)

*プロダクトデザイン：* エリック・ジルー（エリック・ジルー・デザイン・スタジオ）

*開発・製造管理* セルジュ・クリクノフ（MB&F）

*研究開発：* ギヨーム・テヴナン（MB&F）

*ムーブメント開発：* ジャン＝フランソワ・モジョン、ヴァンサン・ブカール（クロノード）

*ムーブメントベース：* ステファノ・マカルーゾ、ラファエル・アッカーマン（ソーウィンド）、デニス・ヴィラール（サンドル＋メトー・ガレタンSA）

*その他のモジュール* バンジャマン・シニュー（AMECAP）

*スチールムーブメント部品：* アラン・ペレ（エレフィル）

*ホイール：* ジャン＝マルク・ナヴァル（ルアージュSA）

*ムーブメント部品手仕上げ：* ジャック＝アドリアン・ロシャ、デニス・ガルシア（C-L ロシャ）

*ムーブメント組み立て：* ディディエ・デュマス、ジョルジュ・ヴェイジー、アン・ギテ、ベルトラン・サゴラン＝ケロル（MB&F）

*ケースとバックルの設計および作成：* ドミニク・メニエ、ベルトラン・ジュネ（G&Fシャトラン）

*ルーバー機構を持つ特殊なクラウン：* ジャン＝ピエール・カサール（シュヴァル・フレールSA）

*サファイアガラス／プリズム：* マルティン・シュテットラー（シュテットラー・サファイアAG）

*時分表示盤：* ジャン＝ミシェル・ペラトン、ジェラール・ゲルン（ブローシュSA）

*バンド：* ティエリー・ロニョン（ヴァリアンス）

*化粧箱：* オリヴィエ・ベルトン（ATSデヴロップマン）

*プロダクション・ロジスティックス* ダヴィド・ラミー（MB&F）

*マーケティング広報：* シャリス・ヤディガログルー、ヴィルジニー・メイラン、エレオノール・ピシオット（MB&F）

*M.A.D.ギャラリー：* エルヴェ・エスティエンヌ（MB&F）

*販売：* ルイ・アンドレ、パトリシア・デュヴィヤール（MB&F）

*グラフィックデザイン：* ジェラール・ムリエール、アンソニー・フランクリン （BaseGVA）

*製品撮影：* マールテン・ファン・デル・エンデ

*ポートレート撮影：* レジス・ゴレ（フェデラル）

*ウェブサイト：* ステファン・バレ、ギヨーム・シュミッツ（スモー・インタラクティブ）

*映像：* マルク＝アンドレ・デシュー（MADinSwitzerland）

*文：* イアン・スケレーン、スティーブン・ロジャース (underthedial)

**MB&F－コンセプトラボの誕生**

マクシミリアン・ブッサーが一流腕時計ブランドを経営していた15年間、何よりも喜びと個人としての充足感を感じたのは、才気あふれる独立時計師との協同プロジェクトでした。やがて、自身の理想が形をなしてゆきます。それは、敬意を抱かせ、共に仕事をしたいと思わせるような才能あるエキスパートと協力して、先鋭的なコンセプトの腕時計を小ロットでデザイン・製作する専門の会社を作ること。そしてブッサーの中の企業家精神が、そのアイデアを現実のものにしました。

MB&Fは腕時計メーカーではなく、アートとマイクロエンジニアリングのコンセプトラボであり、独立した時計のエキスパートたちを毎年集めて、先鋭的なHorological Machine（オロロジカルマシーン）をデザイン・製作しています。伝統の足かせとなる部分は排除しながら伝統を尊重することで、MB&Fは伝統と高品質の時計製造と最新鋭のテクノロジー、そしてアバンギャルドな三次元スカルプチャーを融合するきっかけとしての役割を担っています。

MB&Fによる最初の製品、オロロジカル・マシーンNo1（HM1）は、3次元立体構造の時計設計思想を取り入れた製品で、2007年に発売が開始された。 これに続き、2008年にはHM2が、2009年にはHM3が、どちらもSFの世界からインスピレーションを受けて製作された。 2010年にはHM4サンダーボルトを発売。これはMB&Fの時計の中でも最も野心的な製品との呼び声が高い。 2011年にはレガシー・マシーンNo1が登場。伝統的なデザインを取り入れた新たなシリーズがスタートした。 2012年に発売されたHM5では、1970年代の未来的なアイコンをベースとしたデザインを採用。 2013年には2つのフローティング式テン輪を採用したレガシー・マシーンNo.2が発売された。

**経歴－マクシミリアン・ブッサー**

イタリアのミラノで生まれたマクシミリアン・ブッサーは、幼くしてスイスのローザンヌに移り、そこで若き日々を過ごしました。スイス外交官だった父親がムンバイでインド人の母親と出会い、誕生したブッサー。多文化の環境と家庭の中で成長し、人生と仕事に対する多文化的な広い視野を身につけました。

2005年、38歳のブッサーは、世界初のオロロジカルコンセプトブランドを設立。それがMB&F（マクシミリアン・ブッサー＆フレンズ）であり、現在はセルジュ・クリクノフとともに経営しています。ブッサーがMB&Fにかける夢は、共に仕事をしたいと思わせる人々を集めた最高にクリエイティブな小集団で、先鋭的なオロロジカルコンセプトを実現する自身のブランドに育て上げることです。

マクシミリアン・ブッサーの強みは、その企業家精神です。1998年、31歳の若さで、ジュネーブのハリー・ウィンストン・レア・タイムピーシーズの最高経営責任者に抜擢。それから7年間で、戦略や製品、マーケティング、世界販売を展開する一方、デザインと研究開発、製造を社内で統合し、同社を評判高い一流高級時計ブランドに成長させました。その結果、総売上高が900%増加し、極めて競争の激しいこの市場でハリー・ウィンストンをトップクラスにまで押し上げたのです。

マクシミリアン・ブッサーの高級時計に対する愛情は、初めての勤務先であるジャガー・ルクルトで育まれました。経営上層部の一員を7年間務めた1990年代、ジャガー・ルクルトは存在感を増すとともに、その総売上高を10倍に伸ばしました。ブッサーはジャガー・ルクルトで、製品管理・開発からヨーロッパ担当セールス・マーケティングに至る幅広い役割を担いました。

ブッサーは、1991年にスイス連邦工科大学ローザンヌ校を卒業し、マイクロエンジニアリングの修士号を取得しています。